再生紙・植物油インクを使用しています。
不要になれば古紙回収等に出してください。

問合せ 総合企画局 総合政策室 ☎075-222-3033 FAX 075-212-2902

平和の尊さを考える ―戦後80年を迎えて―

先の大戦では京都にも戦火が及び、多くの尊い命が失われました。
空襲をはじめ、京都に現在も残る戦跡などの一部をご紹介します。

サイレン塔

現在の船岡山公園の山頂付近に残る塔は、戦時中、サイレン塔として、空襲警報を鳴らしていたとされています。

西陣空襲

昭和20（1945）年6月26日に空襲があり、43人が犠牲となり、300戸ほどの家屋が被害を受けました。

▲今年の6月26日に空爆被災を記録する碑で行われた献花式（辰巳公園）

太秦空襲

昭和20（1945）年4月16日にあったとされる空襲です。2人が犠牲となり、多くの方が負傷されました。

市役所本庁舎の屋上には、戦時中、防空のために設置された高射砲台座が残されています。

京都は原爆投下の候補地のひとつだったとされています。もし投下されていた場合、爆心地から2km以内は壊滅的な被害を受けたと推測されます。

馬町空襲

昭和20（1945）年1月16日にあった京都で最初の空襲です。34～40人余りが犠牲となり、50人余りが負傷されました。

昭和19（1944）年から翌年にかけて、空襲による延焼を防ぐため、五条通、御池通、堀川通などで約1万戸の建物が取り壊されました。（建物疎開）

陸軍第十六師団駐屯地

戦時中、深草一帯には陸軍（師団）の駐屯地がありました。現在も、当時の施設や、師団にちなんだ名前が残っているところがあります。

▲師団街道・第一軍道の標識

▲第十六師団司令部庁舎（現・学校法人聖母女学院本館）

監修：佛教大学名誉教授 原田 敬一氏

16 平和と公正をすべての人に

節目の年に、平和の大切さを見つめなおしましょう。

市民しんぶんへの広告（１～４面下欄）を募集中。【問合せ】（株）キテン（☎075-600-2340）　※広告内容は各事業者にお尋ねください。